柳髮新話 浮世床

二 中

第 五 號

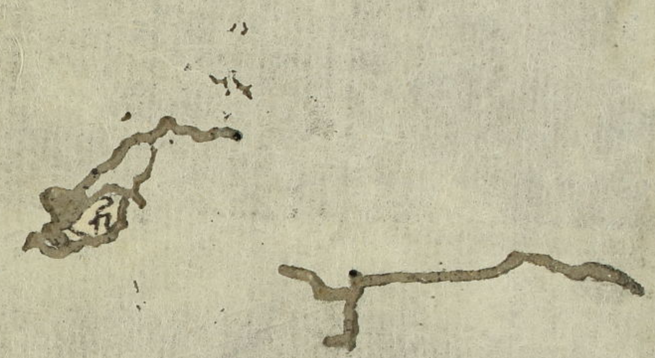
全部 十冊

自 至 十五卷

一組 六冊

1 4
3157
42(6)

14
3157
42
(6)



柳髪新話浮世床二編巻之下

東京戯作者　式亭三馬　戯作

東京都立中央図書館蔵

[illegible]漫[illegible]。きのふの奇怪[illegible]目下に有やうこそ[illegible]
おそろしく陰湿ぐろう漫破[illegible]ぐらう怎生いづれの人
ぞといふに隣新道の人氏姓[illegible]虚田。名は一右八[illegible]何ぞふる
渾名[illegible]者とぞ。名は馬陽といふ男なれ[illegible]何ぞ。
あの高慢[illegible]人物[illegible]今流行る綿頭巾を有さうる
黄色な[illegible]人[illegible]。招牌つきの風流[illegible]雅の

才子と文人とを古題河のやくごとく。筆毒達者紙
ゝんちゃ強勢さ。看一看ちと人ち遠さとてく内ち者と。
樂屋へ這入くゝと何ると後男ぞ。詩人ち牛陰愛ぐ
好の式ちゝさ。馬陰ち蘭字の草書ぐッチ。ちし草書へ
ちゝくといてゝも引書くち右の手の者屋ぐ。ぴんと跳く
おやとぴゝくと。いゝ物ち賣藥ちどの招牌ち書こゝとう
やゝ物ありさうで見ゝ立流ぐ。世人ち解ぜど。唯続
しさぐりで字體ぐ移物ぐと云ぐ。チト迂きちぐちも

詩人の準擬こゝ最ぐ。そゝ上ちゝ以ゝ馬陰ぐ彈名式。紙
りのといてどこく紅毛ゝ。ちゝ間話休題。きのゝ酒樂
和尚。あの男とちゝ二個ぐ。岡山鳥ぐ庵を訪ちゝのさ。
山鳥大の酒客ぐ頗ありちき男さ。まづ寒暖後ち別乃
大酒とちゝ。ゝ。そこ。ちく話下不在さ。却説裏門ちゝ
裏出ちゝ。和尚醉ちゝ。泥ちる声ちゝ高ちゝ小唄
と唄ひの。折く大きやちゝ。ぴちる声ぐちゝと笑て。何ち稽ぐ
さえのちゝの。ちく歩て来やゝ。ちく話分両頭ちゝ

揮名式白と呼る窈窕たる女あり。白と号るゝ所ふと
うるまでに紅粉と粧ひて大造ぶるゝ。異ふく然号て来たりさ。
とろぶ子。モシ白元さへ。こゝ
風がぶる。見た癖ぶるゝ。彼少女が家いるたゝ町ゝ
片側町へ出て。道程半町あまり行くと右側に浪人者ゝ医
者ゝといふ住居で黒格子のある家さへ〳〵ゝ来たる。
あの娘へ名代さへ〳〵ゝ柱ぶじの女弦といふ方で格子
ゝゝ半身見せて〳〵往来の人と強張る娘ぶいつでも立流る

夜着ぶ。こさうよ。金毛織の帯が押物ごとゝゝ奉ゝ白
面金毛織九尾の娘ぢやゝ。男ハ化ゝ兼ゝ紺馬
陽めいてゝ色ゝ。紙街でゝ女郎の背後
ゝ縁深いゝ。所曽比ぎゝ人で地者拵の冠ゝ者ゝ
買ゝゝ。そりやゝ家。陽薄場買と号ゝ。何でも
自慢といふ。ゝ人ゝ。始ゝ。平生ぶんゝ。
ちぶゝて髪毛と一本ゝ抜ゝ。鎖式離と同区。歯磨式牛睡
のい口臭ゝ。小皇の服式二本拵ぐゝ

癖さ。其いろ〳〵ぐ襟紙ちよいと合せて襟先紙ごつと引法く。膝紙トント拵へつゝ四角に坐る。此時両手で羽織の折返し紙ズウイと左どつく。左右へヒラリと羽をとつく。トキニ。といふ。詰の序冠さ。イヨサ。とこいつゝあり。やつと日向紙あつくと扱堪へうはる図両紙倫服ゴンゴツ衣紋とつゝ子。顧向く踵とゐる風ぐ後の風体とゐ。髷を抓。扇を指。ヤハヤうるさきとこいつん

姫 ゐ。トキニ其娘へどうしこまつて不顕そまとさそておきの姫へ袋が通つてを出て居るゐ紙ちよとぶ。ふうきあ。どうも好男子へうゐ。ゑ。おまぶ通る時刻紙考へこいつでを首紙出とぶ。おいつおまとゐへきさ山時雨ぶ。ゐつで毎日ゐつかけ

松 ゐのさそこいつへ西洋ぶ。ゐつ。ゼニサそまぶ地獄ぶ。ゐつ。ゐつゐ。パテ女のゐつでへ楊枝隠ぶゐ。用をゐて通ゐ。ゐつゐ

姫 ゐ。色夏師も骨のとまてこめぶ。甚癖ゐ。ゐつ中移へめゐ

松 ゐ。ゐつくといふ奴へ皆ゐつ倒さまてくきまへどゐふくきまぶ。金物と出ゐ。ゐ好ゐ男の女ぶ買ゐのゐへゐ紙好ごめ。ぶの。イヤさう言ゐさんゐそとぶ色と癖との差別ぶ。女部

のハ色ろ。地者のハ悪落と云わゞ。色悪と二様よ云ふとも。色と悪とハ
あやめ菖蒲と杜若ハ真烏賊と鰯烏賊ゝ遠よのハおいらん風情乃
色悪ゞのハ蕃南瓜と東埔塞稲遠よのハ。新田の足代色悪ろ二丁
絽
絽ゞ立清とるハ赤色。あ弦面で悪と言ゞ長ゞ二面で悪ハ立絽。
心いきゞくとるとハあハ赤加減今ちろゝ三人連ゞ解ゝ来ると。ぱきき
合ゝ呂ととハ白紙半ゝ。ちゑとも真光景ゞ見ゝとろ。和
黄紙手ゞ。ハ花ゝ。ゝとのおと通ろのゝ。サとゞゝ。
馬陰ハ盆石の富士ときゝ。真黒ろ九面よ臭ゝろ大きゝ。

背の低ゝ三人何すとハ裁下ゞあゞく小兵ゞ。美よ引久風来ハ美人
ゝ大の法師。よ一子。並であゝと和尚ゞ章門の蕭よあんと頭ハある
ゝろあゝ。ユデニ人並ゞ往くと例のゞく姫ゞ出ゝくあるチアリと人ゝと馬
陰ゞ自ゞ。ゝ式ゞ姫の方ゝ坊ゝ巳てゝ。ゝ溝端ゝ式あゝゝく
格子のおハ往ゝる。ゞ時和尚ハ先制の恩劇で十二分の酔式引
ゞ。些ゞ心ゞ悪ゝろゝとゝ人ゝゝ。大唱一声ハゝとハゝ声よ駭き。
馬陰ゞ顔回凸凹よ。ゞイと云ゝく吐逆ゝゞ。彼背低の馬陰ゞ頭
ゝゝ。ゞ口ゝと西方の有頭ゝろけゝゝ。前後ハゞゝゝく。ホイと

いひうづら身を退く。除やうとさとると。溝の端ぐらう。馬蹄溝の中へ落ちる。「やとまた大変ぶく」「深い溝でとうつぶ。背ぶ低いう」てうど男の大さ。ト氣のあるうイヤうえと坊も稗搗も茅ぐごそ。二人連行ぐうぶ。ぶ。ぶ。

さう。使ふまでおくのがあるへあるときを。八百屋の青右衛つが而の。
お豆腐さうが来る臭子があるぶな。中妹のお袖ぶ乗ぐごろ。いく
ぢたア絞くろ。二報さん宗法さの。通夜成ーそな。そまもいくろまどぐ
若い者そろで拝弾出ちやアぶんくく扱んぶろス。佛壇入同く
拝弾ぶろしろぶろ。ぶつくぶつく念仏まうしてくおやアぶんさ。そまを
でもお豆ぶ義知さろやアいけどぶかろきーうさぶろ切居
ろアへ兵うろ物でまおぶでくせくく食徳ろくくおるのぶナ
へ色まろ絞食事よへその食事を性ぶ大乃生姜ぶろ。

ろくそろぶうろまろとろ去絞へ拝弾もつろろまろうろ風呂てきつと
風ぶろきろ居るのぶ。くあるやろよへ葬の時うんぶアぶぶ
る世張アやきやアぶんろく。ひまろぶ捌くんぶろ。大乃さんよ
きろくまろくナ。コレまろ絞へ何ぶ。あてまろ絞へ報恩よ人も絞へ
絞よろぶくいろまろくナ。きび助寂滅ぎやさんきろまいろ同よ
遇ろ。そまろろ。ろぶぶナ。戒名弾ろぶ。縁應信女をタワタ
二字戒名ぶッサ。何くく上二字あんろく縁女作女ろぶまぶ好ぶ。
たろさ二字ぶろ絞迎へかんさ絞ぶ。そ上よ今まぶの仏い院号ぶ

付て。はとゝ院。はく。はく信女と。塔おそろしく長い中よ。今度のようなゼ短うござるゝ。絶えてよ。お侍しさんざゝゝ。いつさあと。うるぞくも。あるうるゐどく遠知きとる者をあつく。和尚さるよ。ぶつたくらくさぶ和尚のいつまた。今度の佛六天ざゝゝ何を修行ざるいゝ。今まぐの佛さもん本山つを二度番指いつさを。いろく〻ゝ宗体の切とゝゝがござるゆゝろく。院号よいごゝゝ。ちさきさうよ。夫ゝゝあの世卿が左平二でゝ。出家さる。来和恩厚茶く。ちゝく〻ゝゝゝござりゆゝとぶ。はゝとゝひうさる長人

といふのゝ〻〻長人といふがあるゝ。在家とる檀家とる。ちさらうス
「今ゝそんうゝとゝ式ゝちさうよ。在家ぢゝ。戒名ぶ。短いぞ。まんざゝ
安佛ようるゆうる想を。ゆゝ。修行ぶ。ゝゝとひうさるひきぶ。
今までの佛六十七十ようるゝ。本山つを。ゝゝ。
切とゝゝゝ。ちらぶ。今度の高で十六ようる。
そこゆゝゝ。ごゝゝ。後。長人一ぜん。来和恩厚ぶ。戒名
ちらゝとまけてゝ。院号ぶるゝ。ぜゝく。完二字足てゝん
うゝ。世人。世人のまる形式ごゝ。和尚ゝ

もつて〳〵ごさうで。素和尚忍辱すとも。
忍辱でと。韮蒜でと。修行の後くりめ。長い戒名きやくとぬ
寺法ござるといふとく。世帝めは紙唾く引出ざ子「そん
う語式聽つけ。寺法といふがそんる拾書うすが。二字
ちやうとやとぶいつよ。さうとりやア絶ちと嫌ーござるけす
くのお布絶も快く納やく。和尚の実入を汲ふるる初屋ぞ。
お寺ま大福帳とい式ばおくぷうといふもちくぬぶ。今義よかつろぐ
世のお俗俗俗ふもお方色世ろさ。早く云ふうるく檀助信士。

お三信女てとてるふとも。も歴くの法名ふいろくの御式ざある
うとちとまさまとうとぬとぐぶ。平人ら戒名ま代く院号代く
居士代く大姉ろぐく弱ぐぺんぷろ。鑄の法さ。むいくん縁應信
女と三ぞとらうぶ何院大禪定門ざらうぶ。貪惜ろのーぶ。むづうく
戒名式何ると。孫子の代ま列ろうと去ぼと。棚経の坊さるる
尋てとさとぐでござる。何雪院何く香花信士とござるぶ。首
の字と三ぞんも四番目の字ぶ。そ。どつとえうぶく。美を員情で
續まとぬとく。ろ稼く。ろうませんとい式ん。續る坊さるまんぐ

ひらくこと不叶。人おとくまちまふ。孫や夜のとちとち祖父祖母の戒名紙おびてまどゐ。ひとりとりく拔む時こそ南無阿弥陀仏とあるべし。十五日の佛さまのごろ。ちく濡しく垂くハス。ホイ今ゆくゑ精進日ごろけ。南無こと稚年弟子ちゃうどうもろめ仕揚ごと。ちて上ゆる。十五サ。ちゃうお飯よりが付ごとうポイそんうゆうお備ごと上ちくこ。パイ佛さまま平ゆ免うまこ。今拔ちゃとまくこ南無上貝紙拔ぐ。ちくちゃうでお飯紙ごんぐうペこ。袈裟ぐ拔ちゃう割ゆ合拔ちくとうが世ゆ二回ごとち

とん紙のお飯よ。ごとうう。何院ごちうぐちうこまごちうぐ。お屋くの男子ゆのと平人ゆゑぐ時ごうの名仲ぐまちゆ内名利行ゆの紙つく。ちりひき猪こちぐまぐ不ゆで。ゑぐ生ゑまでゆ名利名仲ゆの猪紙ちゆるのぐ。パテ院号ちう居士ゆまごぐ。べうぐふ。ちくと。法性寺入道ゑちこ。ちうる。三遍づけ。ちゆ唱ちゆ。ゑ拔佛が千年ゆ敷の蓮の上へ往生しちゆ。ちゆ返ゑ。ゑ。ゑ。

ねぶくろまつりの。活居て居へ。今のうるさいことぞ有る。今ら
後くらさ。そこまでくるぐる先ぐ去るまるの。鉢を清信。お三信女で
ねる明くりまで。鉢を清お三を活居るの名ぐ。とまた神道ぐ。
死後で佛道ぐ引をくくまる。其まるい神四の称名死で稼ぐ
方まつりくおいて。式四の神ぐさるへ。勿体後へうう。佛道のほぐ式
をうくぐ。仏中ら信さとうるんとう法名式呼るのさ。去く祐く
くまうと。縁くあてくまうと。坊さるのイ名呼ます。あちちよ
何うも弁法のあうぐらうくうそんるるいとんと打捨るるさ。

八テ地獄の沙汰と金次郎。文晃の松るまれ組いたるさるとある
うくう。何うるくまおとと云後へ。又位づくぐもい戒名うくもぐ。
平人へ出家遠仕女の出りよ組くまるぐい。出家の出名ぐうう
正金づくでへるまいス又修行づくや切づくぐ出るぐ。お歴
くぐるまるぐ。町人の今ね式るまるぐ。天をくと者へくる組く
まるぐう。万両分位でと町人風情うあるひへ切のうい者へ出組
いまくあるがくるるぐう。うるくさるでるいお歴くくるぐ二分両
分位るぐの。佛乃修行もるい佛くよ。出いるもく一息でこまね後る

戒名のある紙をてんぐろ。空る物さへ毎日の家業より退式
さてくわる。若者ゞ死やうぐらめ式切を修行を寿あるやうぐ後
「八百屋の娘のお袖ハ仕合なる者ゞ。まづ一緒くて唱好うと。
一番生えぬむいさゆう。おとアア牡丹おとい式きく後へぐ。それでも
牡丹のようなうろ。お袖ゞ追善のあうんぐ。こうこと人う出来
こてのわやくぐろ。早いゞお徳。ゞとあらうろ。お出とろ
ゞとういこと紙一ぷを行さ。ライちとまた紙うるとく。ヒヘン。
安くゝ後へぐ。

十万億土まこのとおりへゞ近。又近いとおりへゞ近。
縁意後女組いとおりへゞ組。又まいとおりへゞ組。サ
○此又の字を清さう。不用ぐ。社うの。チョッとヒで。
ちう。ようけいうこと紙くく消ちさ。そとてくおよ。ヨマト
待こうこと。
ト之ようく。サアくこんこうの聴問しる。
戒名はまいとあるゞハ百屋の縁意信女。
どうぐ〳〵。行おうく「俄ぐ」といこまゞ。ちつさんも限

ちゃ後へせ「ぜ」ぶつくさ言ふ。「ぶつくさ言ふ。ぶつくさ言ふ。やぶうぐぎと今日
は幾度言ふこと。ど程「ほど」仕方「しかた」ない。そ程「ほど」倒れ「たおれ」ぬ。
移舟「いふね」進物「しんもつ」どころ　移舟兵庫様の見元帳の内不審紙書き写す
のご「ごと」おまへ「お前」の所さうる支体「したい」ぐ下ろ「おろ」のご「ごと」病る玉ぐらうよ。
ひ上る欲ぢやア身「み」の持後「もつご」「姫」れぐどもあらうべ「べ」くもあらぐ
伯母様の子息ぐ泊文「とまり」る事く娘と出来て懐胎さん
ぶうらぐ。ぐる祝言うら要らって夫婦る者ごと目出度み
「まぐ悪さ「あさ」朝ぐらう。イヤ目と飽「あき」ぬ内の奥様はうら

まぐ出せう。ぶつくさんとこ手すぐ一緒る往やせう「ゆこう」角「かど」まで
別れるのご「ごと」そ目ぐと乳「ち」の出さ。ヤ「や」ちらぶ「アイぐる」
さと「アイそんなら。ト」知ら「長」「さとぶ」おいらも飽ら「あき」ぬ出尻ぐ
長「ながい」遠後「とおご」「ちら」も飽ら「あき」ぬ風ぐ立ちと皆ぐ飽るぜ。マア「まあ」
後「あと」「松さん。外「ほか」さん。アイ「あい」まんまのうら「ヨイ」なるうら「外」ものと「松」ぐ
「アイ」。ト立る。外「ほか」「コウ」髪「かみ」さん。ぶつ「ぶつ」ぶつ言ふ。おらぐ
小児の時分「じぶん」ら「ら」問ぐ「ぐ」「ぐ」「人」魚「ぎょ」よ「ぐ」「松」「ぐ」
西瓜「すいか」ぐ「ぐ」「コウ」大物「おもの」る多「ぐ」「き」ぐ。留主「るす」部仏形往と

びんはのあたりをあらためる。野郎頃日ちっとも帝ぐ利まきこぶ。ナカ
松ムラ〳〵まぐ敬ぐ出後くうらいっこ後くうるべいっこぐ「十ちょ司え
ぶやきくすい二才ぐ。まぐ色きまぐ後くの「そさうよ〳〵おろけ
見や。面隠ぐうまき出ぐと安ってよっるとそろく姑ちゃ〳〵好業出
うのぐんぐ〳〵ちろ〳〵長文狂出職ぐのう「つら仏面ぐ乗の
羽ぐ付ぐうまく獲ぐ痛ぐくくかちろきり伸後へせ刹刀とのんく
てぐ梅のあうふうろく掃く後る附ぐ子拶切るべ。見ぐる一日
腰我折番く俯向くちぐう逆上く見ぐ脇ひ。